

保健体育科教育法B		講義	非常勤講師 山野 悟	
科目カテゴリ	スポーツトレーナーコース、スポーツマネジメントコースの教職科目 柔道整復師コースの教職科目 救急救命士コースの教職科目	科目ナンバリング	11531206 12531206 13531206	

1. 授業のねらい・概要

体育授業の実践場面や学習の展開などについて構造的に理解するとともに、各運動領域における教材の特性を理解し、授業の指導計画の立て方や進め方などを学習する。具体的には、授業づくりの基本となる学習指導案の作成をはじめ、各運動領域・種目における実際の授業場面を想定した模擬授業を実施し、体育教師としての実践力を身につける。

2. 授業の進め方

指定テキストおよび関連の資料を用いて、体育科教育の授業づくり、指導計画および学習指導案の作成について講義を進めていく。各運動領域における指導案を作成し、実践的な授業づくりを想定するとともに、模擬授業として実際に授業を実施しながら指導法について議論を深めながら展開する。

3. 授業計画

1. 講義概要説明（オリエンテーション）	9. 学習指導案の作成及び模擬授業の実践（2） （体の動きを高める運動の授業づくり）
2. 体育授業の構造（1） （体育授業の構成について）	10. 学習指導案の作成及び模擬授業の実践（3） （短距離走・リレーの授業づくり）
3. 体育授業の構造（2） （よい体育授業成立の条件）	11. 学習指導案の作成及び模擬授業の実践（4） （マット運動の授業づくり）
4. 体育授業の学習指導（1） （体育授業における教材・教具論）	12. 学習指導案の作成及び模擬授業の実践（5） （跳び箱運動の授業づくり）
5. 体育授業の学習指導（2） （学習指導論、学習形態論）	13. 学習指導案の作成及び模擬授業の実践（6） （ゴール型球技の授業づくり）
6. 体育授業の学習指導（3） （指導方略と指導技術）	14. 学習指導案の作成及び模擬授業の実践（7） （創作ダンスの授業づくり）
7. 体育授業の観察・評価	15. 学習指導案の作成及び模擬授業の実践（8） （現代的なリズムのダンスの授業づくり）
8. 学習指導案の作成及び模擬授業の実践（1） （体ほぐしの運動の授業づくり）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の際に示した内容について、テキストとして使用している学習指導要領解説の該当箇所を参照しておくこと。これらの準備学修には、1時間程度が必要である。また、模擬授業の実践の際に作成する学習指導案への取り組みや模擬授業を振り返るワークシート作成等の学修活動においては、1～2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時間のレポート課題については、課題を提示した次週に要点を解説する。期末レポートについては、ポイントおよび出題意図をレポート回収後に教室にて説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本講義では、体育科教育の教育目標および学習内容を理解し、体育教師として必要とされる授業づくり、学習評価について実践できる力を身につけることを目標とする。また、より実践的な学習指導案を作成することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験としてのレポート(60%)、毎時間レポート課題への取り組み(30%)、講義への参加意欲、活動状況(10%)によって総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：文部科学省 「中学校学習指導要領解説」（保健体育編） 東山書房
参考文献：文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」 東山書房
「中学校学習指導要領」 東山書房
「高等学校学習指導要領解説」（保健体育／体育編） 東山書房

9. 受講上の留意事項

中学校・高等学校（保健体育）の教員免許取得を目指し、意欲的に取り組む学生の受講を望む。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、教育機関における教員としての実務経験（小中学校教員，小中学校校長，教育行政職；生涯学習機関）を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。